

日中図学教育研究国際会議報告

日本側組織委員会事務局長

山口 泰 Yasushi YAMAGUCHI

1. はじめに

日中図学教育研究国際会議は、日本図学会 (Japan Society for Graphic Science: JSGS) と中国工程図学会 (China Engineering Graphics Society: CEGS) が共催する図学教育に関する研究発表ならびに議論を目的とした国際会議である。1993年に第1回が開催され、これまでに西暦の奇数年に7回実施されており、2007年には第8回会議の開催が予定されている。図学国際会議 (International Conference on Geometry and Graphics: ICGG) が西暦の偶数年に開催されるため、図学国際会議との交互開催となっている。

2. 国際会議の開催

第1回からの開催年ならびに開催地は以下のとおりである。

- 第1回 1993年 無錫 (Wuxi)
- 第2回 1995年 成都 (Chengdu)
- 第3回 1997年 昆明 (Kunming)
- 第4回 1999年 敦煌 (Dunhuang)
- 第5回 2001年 大阪 (Osaka)
- 第6回 2003年 ウェブ会議
- 第7回 2005年 西安 (Xian)
- 第8回 2007年 蘇州 (Suzhou)

これまでのところ、第5回会議が大阪で開催された以外は、基本的に中国各地で開催されてきた。第6回がウェブ会議となっているのは、当該会議の開催直前にアジアで流行した重症急性呼吸器症候群 (SARS) の影響によるものである。第6回会議は、本来、西安で開催される予定であったことから、第7回会議が西安で開催された。会議の分野は、

- (1) 図学教育における理論、思想と視点
- (2) 図学(図法幾何学, 設計製図, CG/CAD, eLearning など) 教育法の革新
- (3) 図学教育における評価, 空間認識力の向上
- (4) インターネット/情報時代の図学教育, デジタルメディア教育

(5)工学系学科, 芸術系学科, 企業における図学・製図教育

(6)その他

となっている。

特に最近では、時流に応じて、CG/CAD や eLearning に関する話題が取り上げられるようになってきている。各会議における発表件数は、日本側の発表が25件前後、中国側の発表が40件前後である。これは、主に中国で開催されているために、中国側の参加者数が多いという事情がある。これに加えて、図学教育に分野を絞って、図学国際会議との交互開催になっていることが、日本側参加者数が少ない原因の1つと考えられる。

3. 今後の課題

毎回の懸案として挙がる項目として、日本で開催するか否か、会議の分野を広げるか否か、参加者を日本と中国から広げるか否か、などがある。開催地については、依然として物価の差が大きいことなどから、中国での開催を多めにすべきとの意見が強い。しかし、前回の日本開催からすでに6年経過しようとしていることを考えると、そろそろ日本での開催を考えるべきかも知れない。一方、分野ならび参加者の範囲については国際図学会との兼ね合いもあり、あまりに国際図学会と似た性格のものにすることは避けるべきであろう。この辺りで、日中図学教育研究国際会議の今後の在り方について、きちんと議論しておくことが望ましいと考えられる。

やまぐち やすし
東京大学大学院総合文化研究科情報学環 教授
視覚メディア, 画像・形状処理